

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キョウトサンギョウダイガク 学校法人 京都産業大学								
フリガナ大学の名称	キョウトサンギョウダイガクダイガクイン 京都産業大学大学院 (Kyoto Sangyo University Graduate School)								
大学本部の位置	京都府京都市北区上賀茂本山								
大学の目的	京都産業大学大学院は、専門分野における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与すること並びに高度で専門的な職業能力を有する人材の養成を目的とする。								
新設学部等の目的	多様な他者と協働しながらエビデンスに基づく社会課題の解決策を考案するために、複雑な社会のあり方に関心を持ち、社会学理論と社会調査法の高度な知識を活用できる人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 現代社会学部現代社会学
	現代社会学研究科 [Division of Sociology]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	京都府京都市北区 上賀茂本山	
	現代社会学専攻 [Sociology]	2	6	—	12	修士 (社会学) 【Master of Sociology】	令和4年4月 第1年次		
	計		6	—	12				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	現代社会学研究科 現代社会学専攻(修士課程)	講義	演習	実験・実習	計	30 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	現代社会学研究科 現代社会学専攻(修士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		計	12 (12)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
	既設分	経済学研究科 経済学専攻(博士前期課程)	28 (28)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	0 (0)
		経済学研究科 経済学専攻(博士後期課程)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	0 (0)
		マネジメント研究科 マネジメント専攻(博士前期課程)	23 (23)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	34 (34)	0 (0)	0 (0)
		マネジメント研究科 マネジメント専攻(博士後期課程)	19 (19)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	0 (0)
		法学研究科 法学専攻(博士前期課程)	19 (19)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	0 (0)
		法学研究科 法学専攻(博士後期課程)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		法学研究科 法政策学専攻(博士前期課程)	14 (14)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
法学研究科 法政策学専攻(博士後期課程)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)		

教 員 組 織 の 概 要	既	外国語学研究科 英米語学専攻 (修士課程)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
		外国語学研究科 中国語学専攻 (修士課程)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		外国語学研究科 言語学専攻 (修士課程)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		理学研究科 数学専攻 (博士前期課程)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)
		理学研究科 数学専攻 (博士後期課程)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
		理学研究科 物理学専攻 (博士前期課程)	14 (14)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	4 (4)
		理学研究科 物理学専攻 (博士後期課程)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
		先端情報学研究科 先端情報学専攻 (博士前期課程)	15 (15)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
		先端情報学研究科 先端情報学専攻 (博士後期課程)	15 (15)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
		生命科学研究科 生命科学専攻 (博士前期課程)	21 (21)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
		生命科学研究科 生命科学専攻 (博士後期課程)	21 (21)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
		経済学研究科(通信教育課程) 経済学専攻 (修士課程)	26 (26)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
		京都文化学研究科(通信教育課程) 京都文化学専攻 (修士課程)	7 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (11)	0 (0)	0 (0)
		計	174 (175)	65 (65)	1 (1)	0 (0)	240 (241)	0 (0)	— (—)
		合計	186 (187)	70 (70)	1 (1)	0 (0)	257 (258)	0 (0)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		252 人 (252)		172 人 (172)		424 人 (424)		
	技 術 職 員		20 (20)		6 (6)		26 (26)		
	図 書 館 専 門 職 員		10 (10)		9 (9)		19 (19)		
	そ の 他 の 職 員		17 (17)		10 (10)		27 (27)		
	計		299 (299)		197 (197)		496 (496)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	京都産業大学附属中 学校及び高等学校と 共用 (取容定員) 中学校360人 高等学校1,500人 (校舎基準) 中学校2,520㎡ 高等学校7,440㎡ (運動場基準) 中学校4,800㎡ 高等学校8,400㎡			
	校 舎 敷 地	257,195 ㎡	0 ㎡	11,467 ㎡	268,662 ㎡				
	運 動 場 用 地	85,297 ㎡	16,476 ㎡	7,349 ㎡	109,122 ㎡				
	小 計	342,492 ㎡	16,476 ㎡	18,816 ㎡	377,784 ㎡				
	そ の 他	272,641 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	272,641 ㎡				
	合 計	615,133 ㎡	16,476 ㎡	18,816 ㎡	650,425 ㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		138,741 ㎡ (136,091 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	138,741 ㎡ (136,091 ㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	164 室	78 室	91 室	22 室 (補助職員 55 人)	3 室 (補助職員 2 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		現代社会学研究科 現代社会学専攻 (修士課程)		17 室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分を含む。 学術雑誌 17,998〔17,916〕 電子ジャーナル 17,972〔17,912〕 上記以外の図書・設備は 基礎となる学部と共用	
	現代社会学研究科現代社会学専攻(修士課程)	2,537〔394〕 (2,537〔394〕)	17,998〔17,916〕 (17,998〔17,916〕)	17,972〔17,912〕 (17,972〔17,912〕)	139 (139)	1,002 (998)	0 (0)		
	計	2,537〔394〕 (2,537〔394〕)	17,998〔17,916〕 (17,998〔17,916〕)	17,972〔17,912〕 (17,972〔17,912〕)	139 (139)	1,002 (998)	0 (0)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
	10,152 m ²	1,383		1,491,000					
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体	
	10,619 m ²	トレーニング棟, 弓道場, アーチェリー場, フリークライミング練習場, パターゴルフ練習場, 屋内野球練習場(各1箇所)							
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教員1人当り研究費等は, 研究科単位での算出不能なため, 学部との合計 共同研究費等は大学全体
	教員1人当り研究費等		380千円	380千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		41,000千円	41,000千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	図書購入費		0千円	0千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
	設備購入費	1,000千円	0千円	0千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	891千円	691千円	—	—	—	—			
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料, 補助金等						
既設大学等の状況	大学の名称	京都産業大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	経済学部 経済学科	4年	625人	3年次15人	2,530人	学士(経済学)	0.98 0.98	昭和40年度	京都府京都市 北区上賀茂本山
	経営学部 マネジメント学科	4年	670人	3年次15人	2,025人	学士(経営学)	0.96 0.96	平成31年度	同上
	経営学科	4年	—	—	—	学士(経営学)	—	昭和42年度	同上
	ソーシャル・マネジメント学科	4年	—	—	—	学士(経営学)	—	平成19年度	同上
	会計ファイナンス学科	4年	—	—	—	学士(経営学)	—	平成19年度	同上
	法学部 法律学科	4年	410人	3年次10人	1,660人	学士(法律学)	0.97 0.97	昭和42年度	同上
	法政策学科	4年	185人	3年次5人	750人	学士(法政策学)	0.98	平成21年度	同上
	現代社会学部 現代社会学科	4年	300人	—	1,200人	学士(社会学)	0.99 0.99	平成29年度	同上
	健康スポーツ社会学科	4年	150人	—	450人	学士(健康スポーツ社会学)	1.00	平成29年度	同上
	国際関係学部 国際関係学科	4年	200人	—	600人	学士(国際関係学)	0.95 0.95	平成31年度	同上
	外国語学部 英語学科	4年	120人	—	480人	学士(外国語学)	0.96 0.98	平成26年度	同上
	ヨーロッパ言語学科	4年	175人	—	700人	学士(外国語学)	0.97	平成26年度	同上
アジア言語学科	4年	130人	—	505人	学士(外国語学)	0.93	平成26年度	同上	

既設大学等の状況	国際関係学科	4	—	—	—	学士 (国際関係学)	—	平成 20年度	同上	※平成31年度より学生募集停止（外国語学部国際関係学科）
	文化学部 京都文化学科	4	150	—	450	学士 (京都文化学)	0.99 1.02	平成 27年度	同上	※令和3年度入学定員増（50人）
	国際文化学科	4	170	—	680	学士 (国際文化学)	0.97	平成 12年度	同上	
	理学部 数理科学科	4	55	—	220	学士 (数理科学)	0.97 0.97	昭和 40年度	同上	
	物理科学科	4	40	—	160	学士 (物理科学)	0.94	昭和 40年度	同上	
	宇宙物理・気象学科	4	40	—	160	学士 (宇宙物理・気象学)	0.99	平成 28年度	同上	
	コンピュータ理工学部 コンピュータサイエンス学科	4	—	—	—	学士 (コンピュータ理工学)	—	平成 20年度	同上	※平成30年度より学生募集停止（コンピュータ理工学部コンピュータサイエンス学科、ネットワークメディア学科、インテリジェントシステム学科）
	ネットワークメディア学科	4	—	—	—	学士 (コンピュータ理工学)	—	平成 20年度	同上	
	インテリジェントシステム学科	4	—	—	—	学士 (コンピュータ理工学)	—	平成 20年度	同上	
	情報理工学部 情報理工学科	4	160	—	640	学士 (情報理工学)	0.92 0.92	平成 30年度	同上	
	総合生命科学部 生命システム学科	4	—	—	—	学士 (生命科学)	—	平成 22年度	同上	※平成31年度より学生募集停止（総合生命科学部生命システム学科、生命資源環境学科、動物生命医科学科）
	生命資源環境学科	4	—	—	—	学士 (生命科学)	—	平成 22年度	同上	
	動物生命医科学科	4	—	—	—	学士 (生命科学)	—	平成 22年度	同上	
	生命科学部 先端生命科学科	4	100	—	300	学士 (生命科学)	0.90 0.91	平成 31年度	同上	
	産業生命科学科	4	50	—	150	学士 (生命科学)	0.90	平成 31年度	同上	
	大 学 の 名 称	京都産業大学大学院								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地		
	年	人	人	人		倍				
経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (経済学)	0.10	昭和 44年度	京都府京都市 北区上賀茂本山		
経済学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (経済学)	0.57	昭和 46年度	同上		
マネジメント研究科 マネジメント専攻 (博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (マネジメント)	0.30	平成 14年度	同上		
マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (マネジメント)	0.11	平成 16年度	同上		
法学研究科 法律学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (法律学)	0.20	昭和 47年度	同上		
法律学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (法律学)	0.00	昭和 49年度	同上		
法政策学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (法政策学)	0.05	平成 25年度	同上		
法政策学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (法政策学)	0.16	平成 27年度	同上		
外国語学研究科 英米語学専攻 (修士課程)	2	5	—	10	修士 (英米語学)	0.00	平成 17年度	同上		

既設大学等の状況	中国語学専攻 (修士課程)	2	3	—	6	修士 (中国語学)	0.00	昭和 52年度	同上	
	言語学専攻 (修士課程)	2	3	—	6	修士 (言語学)	0.33	昭和 52年度	同上	
	理学研究科 数学専攻 (博士前期課程)	2	5	—	10	修士 (数学)	0.40	昭和 44年度	同上	
	数学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (数学)	0.11	昭和 46年度	同上	
	物理学専攻 (博士前期課程)	2	10	—	20	修士 (物理学)	0.60	昭和 44年度	同上	
	物理学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (物理学)	0.22	昭和 46年度	同上	
	工学研究科 生物工学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (生物工学)	—	平成 7年度	同上	※平成28年度より学生募集 停止(工学研究科生物工学 専攻博士後期課程)
	先端情報学研究科 先端情報学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士 (先端情報学)	0.70	平成 23年度	同上	
	先端情報学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (先端情報学)	0.55	平成 25年度	同上	
	生命科学研究科 生命科学専攻 (博士前期課程)	2	20	—	40	修士 (生命科学)	0.95	平成 26年度	同上	
	生命科学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (生命科学)	0.44	平成 28年度	同上	
	経済学研究科(通信教育課程) 経済学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (経済学)	0.85	平成 19年度	同上	
	京都文化学研究科(通信教育課程) 京都文化学専攻 (修士課程)	2	10	—	20	修士 (京都文化学)	0.95	平成 31年度	同上	
	附属施設の概要	該当なし								

学校法人京都産業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
京都産業大学				京都産業大学				
経済学部 経済学科	625 ^{3年次}	15	2,530	経済学部 経済学科	625 ^{3年次}	15	2,530	
経営学部 マネジメント学科	670 ^{3年次}	15	2,710	経営学部 マネジメント学科	670 ^{3年次}	15	2,710	
法学部 法律学科	410 ^{3年次}	10	1,660	法学部 法律学科	410 ^{3年次}	10	1,660	
法学部 法政策学科	185 ^{3年次}	5	750	法学部 法政策学科	185 ^{3年次}	5	750	
現代社会学部 現代社会学科	300	-	1,200	現代社会学部 現代社会学科	300	-	1,200	
現代社会学部 健康スポーツ社会学科	150	-	600	現代社会学部 健康スポーツ社会学科	150	-	600	
国際関係学部 国際関係学科	200	-	800	国際関係学部 国際関係学科	200	-	800	
外国語学部 英語学科	120	-	480	外国語学部 英語学科	120	-	480	
外国語学部 ヨーロッパ言語学科	175	-	700	外国語学部 ヨーロッパ言語学科	175	-	700	
外国語学部 アジア言語学科	130	-	520	外国語学部 アジア言語学科	130	-	520	
文化学部 京都文化学科	150	-	600	文化学部 京都文化学科	150	-	600	
文化学部 国際文化学科	170	-	680	文化学部 国際文化学科	170	-	680	
理学部 数理科学科	55	-	220	理学部 数理科学科	55	-	220	
理学部 物理科学科	40	-	160	理学部 物理科学科	40	-	160	
理学部 宇宙物理・気象学科	40	-	160	理学部 宇宙物理・気象学科	40	-	160	
情報理工学部 情報理工学科	160	-	640	情報理工学部 情報理工学科	160	-	640	
生命科学部 先端生命科学科	100	-	400	生命科学部 先端生命科学科	100	-	400	
生命科学部 産業生命科学科	50	-	200	生命科学部 産業生命科学科	50	-	200	
計	3,730 ^{3年次}	45	15,010	計	3,730 ^{3年次}	45	15,010	
京都産業大学大学院				京都産業大学大学院				
経済学研究科 経済学専攻(M)	5	-	10	経済学研究科 経済学専攻(M)	5	-	10	
経済学研究科 経済学専攻(D)	3	-	9	経済学研究科 経済学専攻(D)	3	-	9	
マネジメント研究科 マネジメント専攻(M)	15	-	30	マネジメント研究科 マネジメント専攻(M)	15	-	30	
マネジメント研究科 マネジメント専攻(D)	3	-	9	マネジメント研究科 マネジメント専攻(D)	3	-	9	
法学研究科 法律学専攻(M)	10	-	20	法学研究科 法律学専攻(M)	10	-	20	
法学研究科 法律学専攻(D)	5	-	15	法学研究科 法律学専攻(D)	5	-	15	
法学研究科 法政策学専攻(M)	10	-	20	法学研究科 法政策学専攻(M)	10	-	20	
法学研究科 法政策学専攻(D)	2	-	6	法学研究科 法政策学専攻(D)	2	-	6	
外国語学研究科 英米語学専攻(M)	5	-	10	外国語学研究科 英米語学専攻(M)	5	-	10	
外国語学研究科 中国語専攻(M)	3	-	6	外国語学研究科 中国語専攻(M)	3	-	6	
外国語学研究科 言語学専攻(M)	3	-	6	外国語学研究科 言語学専攻(M)	3	-	6	
理学研究科 数学専攻(M)	5	-	10	理学研究科 数学専攻(M)	5	-	10	
理学研究科 数学専攻(D)	3	-	9	理学研究科 数学専攻(D)	3	-	9	
理学研究科 物理学専攻(M)	10	-	20	理学研究科 物理学専攻(M)	10	-	20	
理学研究科 物理学専攻(D)	3	-	9	理学研究科 物理学専攻(D)	3	-	9	
先端情報学研究科 先端情報学専攻(M)	20	-	40	先端情報学研究科 先端情報学専攻(M)	20	-	40	
先端情報学研究科 先端情報学専攻(D)	3	-	9	先端情報学研究科 先端情報学専攻(D)	3	-	9	
生命科学研究科 生命科学専攻(M)	20	-	40	生命科学研究科 生命科学専攻(M)	20	-	40	
生命科学研究科 生命科学専攻(D)	3	-	9	生命科学研究科 生命科学専攻(D)	3	-	9	
経済学研究科(通信教育課程) 経済学専攻(M)	10	-	20	経済学研究科(通信教育課程) 経済学専攻(M)	10	-	20	
京都文化学研究科(通信教育課程) 京都文化学専攻(M)	10	-	20	京都文化学研究科(通信教育課程) 京都文化学専攻(M)	10	-	20	
計	151	-	327	計	157	-	339	研究科の設置(認可申請)

教育課程等の概要														
(現代社会学研究科現代社会学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
目録 研究 I 基礎 科	社会学理論研究	1前	2			○			1					
	社会調査法研究	1前	2				○			1				
	小計(2科目)	—	4	0	0		—		1	1	0	0	0	0
目録 研究 II 基礎 科	現代文化理論研究	1後		2		○				1				
	社会学史研究	1後		2		○			1					
	現代社会論	1後		2		○				1				
	質的調査法研究	1後		2			○		1					
	量的調査法研究	1後		2			○			1				
	数理・計量社会学研究	1後		2		○			1					
	地域プロジェクト型研究	1前		2		○			2					オムニバス・ 共同(一部)
	社会協働型ワークショップ	1前		2		○			2	1				オムニバス・ 共同(一部)
	小計(8科目)	—	0	16	0		—		6	4	0	0	0	0
	目録 研究 テ マ 科 目	地域社会研究A	1・2前		2		○			1				
地域社会研究B		1・2後		2		○			1					
家族・ジェンダー研究A		1・2前		2		○			1					
家族・ジェンダー研究B		1・2後		2		○			1					
広告研究A		1・2前		2		○			1					
広告研究B		1・2後		2		○			1					
文化研究A		1・2前		2		○			1					
文化研究B		1・2後		2		○			1					
社会哲学研究A		1・2前		2		○			1					
社会哲学研究B		1・2後		2		○			1					
労働・人口社会研究A		1・2前		2		○			1					
労働・人口社会研究B		1・2後		2		○			1					
教育社会研究A		1・2前		2		○			1					
教育社会研究B		1・2後		2		○			1					
地域メディア研究A		1・2前		2		○			1					※演習
地域メディア研究B		1・2後		2		○			1					※演習
映像情報研究A		1・2前		2		○				1				
映像情報研究B		1・2後		2		○				1				
スポーツ社会研究A		1・2前		2		○			1					
スポーツ社会研究B		1・2後		2		○			1					
健康社会研究A		1・2前		2		○			1					
健康社会研究B		1・2後		2		○			1					
小計(22科目)	—	0	44	0		—		10	1	0	0	0	0	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(現代社会学研究科現代社会学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究指導科目	特論演習Ⅰ	1前	2				○		7						-
	特論演習Ⅱ	1後	2				○		7						
	特論演習Ⅲ	2前	2				○		7						
	特論演習Ⅳ	2後	2				○		7						
	小計(4科目)	-	8	0	0		-		7	0	0	0	0	0	
合計(36科目)		-	12	60	0		-		12	5	0	0	0	0	-
学位又は称号		修士(社会学)			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>修了要件のための最低修得単位数は30単位とし、「研究基盤科目Ⅰ」を4単位修得したうえで、「研究基盤科目Ⅱ」から6単位以上、「研究テーマ科目」から8単位以上、「研究指導科目」から8単位を修得するとともに、修士論文または特定課題研究報告書の審査に合格する。 (履修科目の登録の上限：26単位(年間))</p> <p>(1) 「研究基盤科目Ⅰ」から4単位を修得する。</p> <p>(2) 「研究基盤科目Ⅱ」の社会学理論科目群から2単位、社会調査法科目群から2単位、協働科目群から2単位を含め、合計6単位以上を修得する。</p> <p>(3) 「研究テーマ科目」の研究指導教員が担当する科目から4単位、副研究指導教員が担当する科目から4単位を含め、合計8単位以上を修得する。</p> <p>(4) 「研究指導科目」から研究指導教員が担当する科目を連続して履修し、8単位を修得する。</p>								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

教育課程等の概要															
(現代社会学部現代社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 人間科学教育科目	哲学の世界	1前・後		2		○									兼2
	日本思想史入門	1前・後		2		○									兼1
	東アジア思想史入門	1前・後		2		○									兼1
	ヨーロッパ思想史入門	1前・後		2		○									兼1
	宗教学入門	1前・後		2		○									兼1
	倫理学入門	1前・後		2		○									兼1
	文化人類学入門	1前・後		2		○									兼1
	論理学入門	1前・後		2		○									兼1
	Religion in Japan	1前		2		○									兼1
	心理学の世界	1前・後		2		○			1						兼2
	社会心理学入門	1前・後		2		○									兼1
	文化と心理入門	1前・後		2		○									兼1
	認知と学習の心理学入門	1前・後		2		○									兼1
	青年心理学入門	1前・後		2		○									兼1
	臨床心理学入門	1前・後		2		○									兼1
	歴史学の世界	1前・後		2		○									兼3 オムニバス
	The World of History	1後		2		○									兼1
	前近代日本史入門	1前・後		2		○									兼1
	近現代日本史入門	1前・後		2		○									兼1
	ヨーロッパ史入門	1前・後		2		○									兼1
	アメリカ史入門	1前・後		2		○									兼1
	アジア史入門	1前・後		2		○									兼1
	考古学入門	1前・後		2		○									兼1
	Historical Origins of Modern Japan	1前・後		2		○									兼1
	Japanese Culture in Historical Perspective	1後		2		○									兼1
	日本の年中行事	1前・後		2		○									兼1
	京都の歴史と文化	1前・後		2		○									兼1
	文学と芸術学の世界	1前・後		2		○									兼2 オムニバス
	Approaches to Literature and the Arts	1前・後		2		○									兼1
	日本古典文学入門	1前・後		2		○									兼1
	中国古典文学入門	1前・後		2		○									兼1
	近現代日本文学入門	1前・後		2		○									兼1
	近現代小説入門	1前・後		2		○									兼1
	演劇論入門	1前・後		2		○									兼1
	映画論入門	1前・後		2		○									兼1
	美学入門	1前・後		2		○									兼1
	日本美術入門	1前・後		2		○									兼1
	西洋美術入門	1前・後		2		○									兼1
	音楽史入門	1前・後		2		○									兼1
	Introduction to Japanese Literature	1後		2		○									兼1
	Modern Japanese Literature	1前		2		○									兼1
	京都の伝統文化	1前		2		○									兼4 オムニバス
経済学の世界	1前・後		2		○									兼2	
日本経済論入門	1前・後		2		○									兼1	
現代日本経済論入門	1前・後		2		○									兼1	
経営学の世界	1前・後		2		○									兼3	
World of Management Science	1前・後		2		○									兼1	
経営学入門	1前・後		2		○									兼2	
ソーシャル・マネジメント入門	1前・後		2		○									兼1	
簿記入門	1前・後		2		○									兼2	
会計学入門	1前・後		2		○									兼2	
Japanese Management and Business	1前		2		○									兼1	
法学と政治学の世界	1前・後		2		○									兼3 オムニバス・ゼミ（一部）	

教育課程等の概要														
(現代社会学部現代社会学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	刑事法入門	1前・後		2		○								兼1
	国際法入門	1前・後		2		○								兼2
	国際政治入門	1前・後		2		○								兼1
	政治思想史入門	1前・後		2		○								兼1
	Introduction to Japanese Politics	1前		2		○								兼1
	Modern Japanese Government	1後		2		○								兼1
	融合教育のための民法（概論・総則）	1後		2		○								兼1
	融合教育のための民法（総則・物権）	2前		2		○								兼1
	融合教育のための商法	1後		2		○								兼1
	People and Society	1後		2		○								兼1
	社会福祉学入門	1前・後		2		○								兼1
	現代社会福祉論入門	1前・後		2		○								兼1
	マスコミ論入門	1前・後		2		○				1				
	ソーシャル・メディア論入門	1前・後		2		○				1				
	Considering American Society	1前・後		2		○								兼1
	Issues in Japanese Society	1後		2		○								兼1
	環境問題を考える	1後		2		○								兼1
	天文・物理科学の世界	1前・後		2		○								兼2 オムニバス
	宇宙物理入門	1前・後		2		○								兼2 オムニバス
	科学史入門	1前・後		2		○								兼1
	現代科学入門	1前・後		2		○								兼1
	地球科学入門	1前・後		2		○								兼2 オムニバス
	天文学と私たち～光の実験室・神山天文台～	1前		2		○								兼1 集中
	科学コミュニケーション入門	1前・後		2		○								兼1
	相対性理論入門	1前・後		2		○								兼1
	数学の世界	1前・後		2		○								兼1
	数学史入門	1前・後		2		○								兼1
	数学の広がり	1前・後		2		○								兼1
	実社会の数学	1前・後		2		○								兼2
	統計学入門	1前・後		2		○								兼2
	生命・環境科学の世界	1前・後		2		○								兼3 オムニバス
	Ecology and Society	1前・後		2		○				1				
	化学入門	1前・後		2		○								兼2 オムニバス
	健康危機管理論入門	1前・後		2		○								兼1
	生命の誕生と進化入門	1前・後		2		○								兼3 オムニバス
	放射線と生命入門	1前・後		2		○								兼1
	生物と環境入門	1前・後		2		○								兼1
	食料と環境入門	1前・後		2		○								兼2
	病気とくすり入門	1前・後		2		○								兼3 オムニバス
	動物の社会入門	1前・後		2		○								兼1
	Environmental Problems	1前・後		2		○								兼1
	Japanese Science & Technology	1前・後		2		○								兼1
	情報科学の世界	1前・後		2		○								兼2 オムニバス
	情報の知財と倫理入門	1前・後		2		○								兼1
	情報メディア論入門	1前・後		2		○								兼1
	人間情報処理入門	1前・後		2		○								兼5 共同（一部）
	情報科学入門	1前・後		2		○								兼1
	ハテナソンセミナー	1後		2				○						兼1
	大学の歴史と京都産業大学	1前		2		○				1				兼7 オムニバス
	熊本・山鹿フィールド	1前		2				○						兼1 集中
	日本語表現1	1前・後		2		○								兼10
	日本語表現2	1後・2前		2		○								兼6
	複眼的思考で見る多様な世界	1後		2		○				3				兼10 オムニバス

教育課程等の概要															
(現代社会学部現代社会学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	GJP Introductory Seminar	1前		2		○									兼1
	京都の世界遺産PBL	1通		2			○								兼1
	気象予報1	1前		2		○									兼1
	気象予報2	1後		2		○									兼1
	気象予報技術	2前		2		○									兼1
	ボランティア論	1前・後		2		○									兼1
	ボランティア入門	1前		2		○									兼1
	ボランティア実習	1後		2			○								兼1
	体験する人間情報計測	1後		2			○								兼3 オムニバス・共同（一部）
	教育課程論	2前・後		2		○			1						
	道徳教育論	1前・後		2		○			1						
	特別活動論	1前・後		2		○									兼1
	教育の方法と技術	1前・後		2		○									兼1
	教育方法の理論と実践	1前・後		2		○									兼1
	生徒・進路指導論	1前・後		2		○									兼1
	教育相談の基礎と方法	2前・後		2		○									兼1
	教育原論	1後		2		○									兼1
	教育心理学	2後		2		○			1						
	発達心理学	2前		2		○			1						
	教育法規・教育行財政	2後		2		○									兼1
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼1
	教育と現代文化	1前・後		2		○									兼1
	教育社会学	1前・後		2		○			1						
	教職論	1前・後		2		○			1						
	人権思想と現代社会	1前・後		2		○									兼1
	人権のあゆみ	1前・後		2		○									兼1
	人権を考える	1前		2		○									兼3 オムニバス
	部落問題論	2前・後		2		○									兼1
	コンピュータ基礎実習（初級）	1前・後		1				○							兼4
	コンピュータ基礎実習（上級）	1前・後		1				○							兼3
	コンピュータシステム	1前・後		2		○									兼1
言語教育科目	基礎英語（総合）I	1前		1				○							兼3
	基礎英語（総合）II	1後		1				○							兼3
	基礎英語（総合）III	2前		1				○							兼2
	基礎英語（総合）IV	2後		1				○							兼2
	基礎英語（コミュニケーション）I	1前		1				○							兼2
	基礎英語（コミュニケーション）II	1後		1				○							兼2
	基礎英語（コミュニケーション）III	2前		1				○							兼2
	基礎英語（コミュニケーション）IV	2後		1				○							兼2
	初級英語（コミュニケーション）I	1前		1				○							兼4
	初級英語（コミュニケーション）II	1後		1				○							兼4
	初級英語（コミュニケーション）III	2前		1				○							兼1
	初級英語（コミュニケーション）IV	2後		1				○							兼1
	初級英語（TOEIC）I	1前		1				○							兼4
	初級英語（TOEIC）II	1後		1				○							兼4
	初級英語（TOEIC）III	2前		1				○							兼3
	初級英語（TOEIC）IV	2後		1				○							兼3
	中級英語（コミュニケーション）I	1前		1				○							兼4
	中級英語（コミュニケーション）II	1後		1				○							兼4
	中級英語（コミュニケーション）III	2前		1				○							兼3
	中級英語（コミュニケーション）IV	2後		1				○							兼3
中級英語（TOEIC）I	1前		1				○							兼3	

教育課程等の概要														
(現代社会学部現代社会学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中級英語 (TOEIC) II	1後		1				○						兼3
	中級英語 (TOEIC) III	2前		1				○						兼5
	中級英語 (TOEIC) IV	2後		1				○						兼5
	上級英語 (プレゼンテーション) I	1前		1				○						兼4
	上級英語 (プレゼンテーション) II	1後		1				○						兼4
	上級英語 (ディスカッション) I	2前		1				○						兼9
	上級英語 (ディスカッション) II	2後		1				○						兼9
	上級英語 (TOEIC) I	1前		1				○						兼4
	上級英語 (TOEIC) II	1後		1				○						兼4
	上級英語 (TOEIC) III	2前		1				○						兼7
	上級英語 (TOEIC) IV	2後		1				○						兼7
	TOEICリスニング (初級)	1前・後		1				○						兼1
	TOEICリーディング (初級)	1前・後		1				○						兼1
	TOEICリスニング (中級)	1前・後		1				○						兼1
	TOEICリーディング (中級)	1前・後		1				○						兼1
	TOEICリスニング (上級)	1前・後		1				○						兼1
	TOEICリーディング (上級)	1前・後		1				○						兼1
	旅行英語 (初級)	1前・後		1				○						兼1
	旅行英語 (中級)	1前・後		1				○						兼1
	映画英語 (初級)	1前・後		1				○						兼1
	映画英語 (中級)	1前・後		1				○						兼1
	ビジネス英語 (初級)	1前・後		1				○						兼2
	ビジネス英語 (中級)	1前・後		1				○						兼1
	英会話文法 (初級)	1前・後		1				○						兼1
	英会話文法 (中級)	1前・後		1				○						兼1
	ライティング (初級)	1前・後		1				○						兼1
	ライティング (中級)	1前・後		1				○						兼2
	発音トレーニング	1前・後		1				○						兼2
	アクティブイングリッシュ (初級)	1前・後		1				○						兼1
	アクティブイングリッシュ (中級)	1前・後		1				○						兼1
	プレゼンテーション (中級)	1前・後		1				○						兼1
	ディスカッション (中級)	1前・後		1				○						兼1
	ドイツ語エキスパート I	1前		4				○						兼4
	ドイツ語エキスパート II	1後		4				○						兼4
	たのしく学ぶドイツ語 I A	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶドイツ語 II A	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶドイツ語 I B	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶドイツ語 II B	1後		1				○						兼1
	フランス語エキスパート I	1前		4				○						兼3
	フランス語エキスパート II	1後		4				○						兼3
	たのしく学ぶフランス語 I A	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶフランス語 II A	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶフランス語 I B	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶフランス語 II B	1後		1				○						兼1
	中国語エキスパート I	1前		4				○						兼2
	中国語エキスパート II	1後		4				○						兼2
	たのしく学ぶ中国語 I A	1前		1				○						兼2
	たのしく学ぶ中国語 II A	1後		1				○						兼2
	たのしく学ぶ中国語 I B	1前		1				○						兼2
	たのしく学ぶ中国語 II B	1後		1				○						兼2
	たのしく学ぶロシア語 I A	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶロシア語 II A	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶロシア語 I B	1前		1				○						兼1

教育課程等の概要														
(現代社会学部現代社会学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	たのしく学ぶロシア語ⅡB	1後		1				○						兼1
	スペイン語エキスパートⅠ	1前		4				○						兼4
	スペイン語エキスパートⅡ	1後		4				○						兼4
	たのしく学ぶスペイン語ⅠA	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶスペイン語ⅡA	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶスペイン語ⅠB	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶスペイン語ⅡB	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶインドネシア語ⅠA	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶインドネシア語ⅡA	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶインドネシア語ⅠB	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶインドネシア語ⅡB	1後		1				○						兼1
	イタリア語エキスパートⅠ	1前		4				○						兼2
	イタリア語エキスパートⅡ	1後		4				○						兼2
	たのしく学ぶイタリア語ⅠA	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶイタリア語ⅡA	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶイタリア語ⅠB	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶイタリア語ⅡB	1後		1				○						兼1
	韓国朝鮮語エキスパートⅠ	1前		4				○						兼3
	韓国朝鮮語エキスパートⅡ	1後		4				○						兼3
	たのしく学ぶ韓国朝鮮語ⅠA	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶ韓国朝鮮語ⅡA	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶ韓国朝鮮語ⅠB	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶ韓国朝鮮語ⅡB	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶベトナム語ⅠA	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶベトナム語ⅡA	1後		1				○						兼1
	たのしく学ぶベトナム語ⅠB	1前		1				○						兼1
	たのしく学ぶベトナム語ⅡB	1後		1				○						兼1
	上級日本語1（文章表現）Ⅰ	1前		1				○						兼2
	上級日本語1（文章表現）Ⅱ	1後		1				○						兼2
	上級日本語1（聴解）Ⅰ	1前		1				○						兼1
	上級日本語1（聴解）Ⅱ	1後		1				○						兼1
	上級日本語1（語彙・読解）Ⅰ	1前		1				○						兼1
	上級日本語1（語彙・読解）Ⅱ	1後		1				○						兼1
	上級日本語1（口頭表現）Ⅰ	1前		1				○						兼2
	上級日本語1（口頭表現）Ⅱ	1後		1				○						兼2
	上級日本語2（文章表現）Ⅰ	1前		1				○						兼2
	上級日本語2（文章表現）Ⅱ	1後		1				○						兼2
	上級日本語2（聴解）Ⅰ	1前		1				○						兼1
	上級日本語2（聴解）Ⅱ	1後		1				○						兼1
	上級日本語2（語彙・読解）Ⅰ	1前		1				○						兼2
	上級日本語2（語彙・読解）Ⅱ	1後		1				○						兼2
	上級日本語2（口頭表現）Ⅰ	1前		1				○						兼1
	上級日本語2（口頭表現）Ⅱ	1後		1				○						兼1
	上級日本語3（文章表現）Ⅰ	1前		1				○						兼2
	上級日本語3（文章表現）Ⅱ	1後		1				○						兼1
	上級日本語3（ビジネス）Ⅰ	1前・後		1				○						兼1
	上級日本語3（ビジネス）Ⅱ	1前・後		1				○						兼1
	検定で学ぶ日本語（上級）Ⅰ	1前・後		1				○						兼1
	検定で学ぶ日本語（上級）Ⅱ	1前・後		1				○						兼1
	検定で学ぶ日本語（中級）Ⅰ	1前		1				○						兼1
	検定で学ぶ日本語（中級）Ⅱ	1後		1				○						兼1
	実践日本語	1前・後		1				○						兼1
	留学生のための日本事情	1前・後		2			○							兼1

教育課程等の概要														
(現代社会学部現代社会学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	中級日本語1 (文法) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語1 (文法) II	1後		1				○						兼1
	中級日本語2 (文法) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語2 (文法) II	1後		1				○						兼1
	中級日本語1 (会話) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語1 (会話) II	1後		1				○						兼1
	中級日本語2 (口頭表現) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語2 (口頭表現) II	1後		1				○						兼1
	中級日本語1 (語彙・読解) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語1 (語彙・読解) II	1後		1				○						兼1
	中級日本語2 (語彙・読解) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語2 (語彙・読解) II	1後		1				○						兼1
	中級日本語1 (聴解) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語1 (聴解) II	1後		1				○						兼1
	中級日本語2 (聴解) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語2 (聴解) II	1後		1				○						兼1
	中級日本語 (文字・表記) I	1前		1				○						兼1
	中級日本語 (文字・表記) II	1後		1				○						兼1
キャリア形成支援教育科目	自己発見と大学生活	1前		2			○			1	1			兼3
	ファシリテーション入門	1後		2				○						兼1
	自己発見とキャリアデザイン	2前・後		2				○		1				兼4
	働き方の未来	3前・後		2				○						兼1
	ブレップ・インターンシップ	2通		3				○						兼1 集中
	アスリートインターンシップ	2後		2				○						兼2 オムニバス
	インターンシップ1	2通		2				○						兼1 集中
	インターンシップ2	2通		2				○						兼1 集中
	インターンシップ3	2通		4				○			1			兼9 集中
	インターンシップ4	2通		4				○						兼1 集中
	インターンシップ5	2通		2				○						兼1 集中
	O/OCF-PBL1	1後		2				○		1	1			兼15
	O/OCF-PBL2	2通		4				○		2				兼9 集中
スタートアップ・インターンシップ	1後		2				○						兼2 オムニバス	
企業人と学生のハイブリッド	2後		2				○						兼1	
体育教育科目	健康科学講義	1前・後		2			○							兼4
	スポーツ科学講義A	2後		2			○							兼1
	スポーツの心理	1前		2			○							兼1
	ウェイトトレーニングの理論と実際	1前		2			○							兼1
	スポーツ指導論	1前		2			○							兼1
	スポーツ医学I	1前		2			○							兼1
	スポーツ医学II	1後		2			○							兼1
	スポーツマネジメント	1前・後		2			○							兼1
	スポーツのスキル	1後		2			○							兼1
	スポーツと人間形成	1後		2			○							兼1
	健康科学実習	1前・後		1					○					兼8
	スポーツ科学実習A	1前		1					○					兼8
	スポーツ科学実習B	1後		1					○					兼6
	健康科学演習A	2前		2				○						兼1
	健康科学演習B	2後		2				○						兼1
スポーツ科学演習A	2前		2				○						兼1	
スポーツ科学演習B	2後		2				○						兼2	
小計 (313科目)		—		520				—		8	4			兼283

教育課程等の概要																
(現代社会学部現代社会学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	導入科目	社会学入門A	1前	2			○			1	2					
		社会学入門B	1後	2			○				3					
		現代社会の諸問題A	1前		2			○		5	4				兼4	オムニバス
		現代社会の諸問題B	1後		2			○		6	2				兼5	オムニバス
		入門演習A	1前		2				○	8	8				兼3	
		入門演習B	1後		2				○	8	8				兼3	
		小計（6科目）	—	4	8	0	—	—	—	12	8	0	0	0	兼9	—
	基盤科目	社会学英語セミナーA	2前		2			○			1					
		社会学英語セミナーB	2後		2			○			1					
		海外フィールドワーク入門	2前		2			○			1					
		社会調査入門	2前		2			○			1					
		社会調査方法論	2後		2			○			1					
		データ分析	2前		2				○	2	1					
		社会統計学	2後		2				○	2	1					
		量的調査法	3前		2			○			1					
		質的調査法	3前		2			○			1					
		社会調査実習Ⅰ	3前		2						1					
		社会調査実習Ⅱ	3後		2						1					
		小計（11科目）	—	0	22	0	—	—	—	2	7	0	0	0	0	—
リーダーシップ科目	リーダーシップ入門	1前		2			○			1						
	キャリア開発論	2後		2			○			1				兼1	オムニバス	
	現代社会とキャリア	2前		2			○			1				兼1	オムニバス	
	社会活動運営論	2前		2			○		1							
	地域社会とリーダーシップ	2後		2			○		1							
	パブリック・スピーキング	2後		2			○		1							
	神山STYLEリーダーシップ論A（現代社会学領域）	3前		2			○			1						
	神山STYLEリーダーシップ論B（健康スポーツ社会学領域）	3後		2			○		1							
	小計（8科目）	—	0	16	0	—	—	—	4	1	0	0	0	兼1	—	
学科専門科目	地域社会学	2前		2			○		1							
	人間社会学	2前		2			○		2	1					オムニバス	
	メディア社会学	2前		2			○		1							
	家族社会学	2前		2			○		1							
	産業社会学	2後		2			○		1							
	社会史	2前		2			○		1							
	社会哲学	2後		2			○		1							
	宗教社会学	2後		2			○		1							
	政治社会学	2後		2			○			1						
	歴史社会学	2後		2			○		1							
	小計（10科目）	—	0	20	0	—	—	—	7	2	0	0	0	0	—	
展開科目	環境社会学	2前		2			○			1						
	観光社会学	2後		2			○		1							
	公共政策論	2前		2			○		1							
	地域活性論	2前		2			○		1							
	地域行政論	2後		2			○		1							
	ホスピタリティと企業活動	2後		2			○		1							
	北近畿学	3後		2			○		1							
	京都環境論	3後		2			○		1							
	コミュニティと学校	3前		2			○		1							
	地域産業論	3前		2			○		1							
	ホスピタリティ人材育成論	3後		2			○		1							
	自然地理学概論	2前		2			○							兼1		
	社会人類学	2後		2			○			1						
人文地理学概論	2前		2			○							兼1			

教育課程等の概要														
(現代社会学部現代社会学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	地誌学概論	2後		2		○								兼1
	東南アジア地域論A	2前		2		○				1				
	東南アジア地域論B	2後		2		○				1				
	法人類学	2後		2		○			1					
	NPO起業論	3前		2		○			1					
	国際NGO論	3後		2		○			1					
	食と農業	3前		2		○								兼1
	農村社会学	3前		2		○				1				
	学校教育と社会	2後		2		○			1					兼1
	社会心理学	2前		2		○								
	地域社会と福祉	2後		2		○				1				
	倫理学概論	2後		2		○			1					
	価値観形成と学校	3前		2		○			1					
	現代社会と心理臨床	3後		2		○			1					
	社会階層論	3前		2		○				1				
	生涯学習論	3前		2		○			1					
	青少年の行動と生活	3後		2		○								兼1
	現代社会と宗教	2前		2		○								兼1
	現代ビジネスの課題	2前		2		○			1					
	政治学概論	2前		2		○								兼1
	エスニシティ論	2後		2		○								兼1
	文化人類学	2前		2		○				1				
	ジェンダー論	2後		2		○				1				
	比較社会論	2後		2		○				1				
	現代社会とビジネス	3前		2		○			1					
	現代社会とメンタルヘルス	3前		2		○			1					
	人口社会学	3後		2		○			1					
	多文化共生論	3前		2		○								兼1
	男性学・男性性研究	3後		2		○			1					
	異文化コミュニケーション論	2後		2		○				1				
	社会言語学	2前		2		○								兼1
	消費文化論	2前		2		○			1					
	ファン文化論	2前		2		○				1				
	文化社会学	2前		2		○				1				
	ポピュラー・カルチャー論	2前		2		○			1					
	マンガ文化論	2後		2		○			1					
	グローバル文化論	3前		2		○			1					
	都市社会学	3後		2		○				1				
	表象文化論	3後		2		○								兼1
	ポピュラー音楽文化論	3後		2		○				1				
	広告メディア論	2前		2		○			1					
	社会ネットワーク論	2前		2		○			1					
	地域社会とメディア	2後		2		○			1					
	マス・コミュニケーション論	2後		2		○				1				
	メディア産業論	2前		2		○			1					
	映像メディア論	3前		2		○				1				
	広告実践演習	3後		2		○			1					
	ジャーナリズムの諸問題	3後		2		○								兼1
	ジャーナリズムの歴史	3前		2		○								兼1
	マーケティング・コミュニケーション論	3前		2		○			1					
	メディアリテラシー論	3前		2		○			1					
	小計（65科目）	—	0	130	0	—	—	—	15	7	0	0	0	兼10

教育課程等の概要																				
(現代社会学部現代社会学科)																				
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
演習科目	演習Ⅰ	2後		2				○		11	5				兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1					
	演習Ⅱ	3前		2				○		11	5									
	演習Ⅲ	3後		2				○		11	5									
	演習Ⅳ	4前		2				○		11	5									
	演習Ⅴ	4後		2				○		11	5									
	プロジェクト演習Ⅰ	2後		2				○		2	3									
	プロジェクト演習Ⅱ	3前		2				○		2	3									
	プロジェクト演習Ⅲ	3後		2				○		2	3									
	プロジェクト演習Ⅳ	4前		2				○		2	3									
	プロジェクト演習Ⅴ	4後		2				○		2	3									
	特別演習Ⅰ	3前		2				○		1										
	特別演習Ⅱ	3後		2				○		1										
	小計（12科目）		—	0	24	0			—		14	8	0	0		0	兼1	—		
合計（425科目）		—	4	740	0			—		15	8	0	0	0	兼294	—				
学位又は称号		学士（社会学）			学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係												
卒業要件及び履修方法							授業期間等													
<p>卒業要件のための最低修得単位数は124単位とし、「共通教育科目」から最低30単位、「専門教育科目」から最低74単位を修得する。また、「学部共通科目」と「学科専門科目」とをあわせて最低60単位を修得する。なお、「専門教育科目」の74単位には、14単位を上限として健康スポーツ社会学科専門教育科目及び現代社会学部履修可とする他学部専門教育科目の単位を算入することができる。 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））</p> <p>（1）「共通教育科目」に関する卒業要件と履修方法 ・「共通教育科目」には、「人間科学教育科目」「言語教育科目」「体育教育科目」「キャリア形成支援教育科目」をおく。 ・「人間科学教育科目」から8単位以上を修得する。 ・「言語教育科目」と「体育教育科目」から合わせて12単位以上を修得する。なお、「言語教育科目」のうち英語教育科目は8単位を必修とする。また、「体育教育科目」から1単位以上を修得し、「言語教育科目」「体育教育科目」のどちらかから3単位以上を修得する。 ・「キャリア形成支援教育科目」から2単位以上を修得する。</p> <p>（2）「専門教育科目」に関する卒業要件と履修方法 ・専門教育科目は「学部共通科目」「学科専門科目」の2つからなる。「学部共通科目」には「導入科目」「基盤科目」「リーダーシップ科目」をおき、「学科専門科目」には「基盤科目」「展開科目」「演習科目」をおく。</p> <p>（学部共通科目） ・「導入科目」には、『社会学入門A』『社会学入門B』『現代社会の諸問題A』『現代社会の諸問題B』『入門演習A』『入門演習B』の合計6科目をおく。この「導入科目」から6単位以上を修得する。なお、『社会学入門A』『社会学入門B』の4単位を必修とする。また、『現代社会の諸問題A』『現代社会の諸問題B』から2単位以上を修得する。 ・「基盤科目」には、『社会学英語セミナーA』『社会学英語セミナーB』『海外フィールドワーク入門』及び社会調査士資格取得に関連する科目『社会調査入門』『社会調査方法論』『データ分析』『社会統計学』『量的調査法』『質的調査法』『社会調査実習Ⅰ』『社会調査実習Ⅱ』の合計11科目をおく。この「基盤科目」から4単位以上を修得する。 ・「リーダーシップ科目」には、『リーダーシップ入門』『キャリア開発論』『現代社会とキャリア』『社会活動運営論』『地域社会とリーダーシップ』『パブリック・スピーキング』『神山STYLEリーダーシップ論A（現代社会学領域）』『神山STYLEリーダーシップ論B（健康スポーツ社会学領域）』の合計8科目をおく。この「リーダーシップ科目」から4単位以上を修得する。</p>							1学年の学期区分							2学期						
卒業要件及び履修方法							授業期間等													
卒業要件のための最低修得単位数は124単位とし、「共通教育科目」から最低30単位、「専門教育科目」から最低74単位を修得する。また、「学部共通科目」と「学科専門科目」とをあわせて最低60単位を修得する。なお、「専門教育科目」の74単位には、14単位を上限として健康スポーツ社会学科専門教育科目及び現代社会学部履修可とする他学部専門教育科目の単位を算入することができる。 （履修科目の登録の上限：44単位（年間））							1学期の授業期間							15週						

教 育 課 程 等 の 概 要														
(現代社会学部現代社会学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	<p>(学科専門科目)</p> <p>・「基盤科目」には、『地域社会学』『人間社会学』『メディア社会学』『家族社会学』『産業社会学』『社会史』『社会哲学』『宗教社会学』『政治社会学』『歴史社会学』の合計10科目をおく。この「基盤科目」から8単位以上を修得する。なお、地域社会学コースを選択する学生は『地域社会学』を、人間社会学コースを選択する学生は『家族社会学』を、メディア社会学コースを選択する学生は『メディア社会学』を必ず修得する。</p> <p>・「展開科目」におく『環境社会学』『観光社会学』『公共政策論』『地域活性論』『地域行政論』『ホスピタリティと企業活動』『北近畿学』『京都環境論』『コミュニティと学校』『地域産業論』『ホスピタリティ人材育成論』『自然地理学概論』『社会人類学』『人文地理学概論』『地誌学概論』『東南アジア地域論A』『東南アジア地域論B』『法人類学』『NPO起業論』『国際NGO論』『食と農業』『農村社会学』を地域社会学コースの展開科目とする。</p> <p>『学校教育と社会』『社会心理学』『地域社会と福祉』『倫理学概論』『価値観形成と学校』『現代社会と心理臨床』『社会階層論』『生涯学習論』『青少年の行動と生活』『現代社会と宗教』『現代ビジネスの課題』『政治学概論』『エスニシティ論』『文化人類学』『ジェンダー論』『比較社会学』『現代社会とビジネス』『現代社会とメンタルヘルス』『人口社会学』『多文化共生論』『男性学・男性性研究』を人間社会学コースの展開科目とする。</p> <p>『異文化コミュニケーション論』『社会言語学』『消費文化論』『ファン文化論』『文化社会学』『ポピュラー・カルチャー論』『マンガ文化論』『グローバル文化論』『都市社会学』『表象文化論』『ポピュラー音楽文化論』『広告メディア論』『社会ネットワーク論』『地域社旗とメディア』『マス・コミュニケーション論』『メディア産業論』『映像メディア論』『広告実践演習』『ジャーナリズムの諸問題』『ジャーナリズムの歴史』『マーケティング・コミュニケーション論』『メディアリテラシー論』をメディア社会学コースの展開科目とする。</p> <p>・「展開科目」から、地域社会学コースを選択する学生は地域社会学コースの展開科目から、人間社会学コースを選択する学生は人間社会学コースの展開科目から、メディア社会学コースを選択する学生はメディア社会学コースの展開科目から16単位以上を修得する。</p> <p>・「演習科目」から4単位以上を修得する。</p>					1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 基盤 科目 I	社会学理論研究	マクロ社会学理論、ミクロ社会学理論の系譜を把握するとともに、これを統合するミクロマクロリンクに向けた社会学理論の動向を十分に理解し、文化をめぐる新たな理論、再帰的近代化論、アクターネットワーク理論などを身につけることで、現実の社会分析のための理論的考察力を身につけることを目標とする。授業内容と方法については、社会学理論の大きな流れをマクロ社会学、ミクロ社会学という視座からとらえ、その上で、マクロミクロリンクをめざす社会学理論の現代的展開を論じた上で、いわゆるカルチュラルターンや文化のストロングプログラム論、リスク社会論、アクターネットワーク理論など、現代社会をめぐる新たな社会学理論について考察を行う。その上で、現代世界がかかえる諸問題をめぐって、SDGsなどにみられる国際的な共通課題の社会学理論上の理解を深める。	
	社会調査法研究	本科目は、「データ駆動型社会」や「Society 5.0」と言われる現代社会において、適切なデータ取得や整備にもとづくエビデンス・ベースの社会課題の解決が重視されるようになったことを理解した上で、社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計を行うための実践的な知識と能力を習得することを目的とする。具体的には調査方法論、調査倫理を踏まえ、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説構成、調査票の作成、サンプリングないし対象者・フィールドの選定、実査、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成）、比較的簡単な量的分析とグラフ作成、質的な分析、以上に基づく報告書作成に関する演習を行う。	
研究 基盤 科目 II	現代文化理論研究	英語文献の訳読をもとに、現代文化を経験的・実証的に研究するための社会的諸理論の批判的習得を目標とする。そのために、Routledge Handbook of Cultural Sociology 2nd edition (2019)に含まれる諸論文の輪読と、教員による解説、受講生による議論をおこなうことで、社会学を中心とした現代文化理論の諸研究を批判的に読み解いていく。そのさい、問題領域や研究分野がもつそれぞれ特有の理論的観点を忠実に取り出すことを眼目とする。	
	社会学史研究	成り立ちから現代に至る社会学の歴史を、各国の社会学者のライフヒストリーや彼らの背景にある歴史的・文化的文脈、さらに関連する文化・思想運動や政治状況などと重ねあわせつつ学習することで、社会学の理論・思想的立脚点を歴史的かつ立体的に学習し理解することを目的とする。授業内容・方法としては、成り立ちから現代までの社会学の歴史を、各国の社会・歴史的な文脈や社会学者の個人史などと重ね合わせ、文化・思想運動や政治状況とも関連させつつ、「社会学の知識社会学」「社会学の社会学」の視座から立体的に解説を行う。また、各国の社会学および社会思想の相互の影響関係についても考察を加える。	
	現代社会論	本授業においては、現代社会をめぐる様々な社会理論を詳細に検討しながら、特に「後期近代における時間と空間の変容」というテーマについて専門的な理解を深めることを目標とする。さらに、後期近代における記憶とノスタルジア、ユートピアと未来といった問題系へと議論を接続していくことで、激動する現代社会における新たな社会構想の可能性の追求にまで考察を深めることを最終的に目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会調査法科目群	質的調査法研究	本科目では、演習形式で質的調査法についての実践的な能力を習得することを目的とする。まず、さまざまな質的調査法（聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析）に関する専門的知識を学んだ上で、そのいずれかについて実践的な能力を習得することを目指す。それと並行して、文書データ（新聞・雑誌記事、文学作品、資料文書など）、映像データ（各種映像資料、テレビ放送、映画など）を中心としたさまざまな質的データの分析法を習得する。	
	量的調査法研究	本科目は、量的社会調査データの分析に必要な、各種の多変量解析に関する知識と能力を習得することを目的とする。具体的には、数理統計学の基礎を踏まえながら、多変量解析（重回帰分析、パス解析、主成分分析、因子分析、共分散構造分析、マルチレベル分析、ログリニア分析、ロジスティック回帰分析など）に共通する計量モデルを用いた多変量解析手法の基本を理解するとともに、SPSSやR、その他の統計ソフトウェアを用いて実際に使用することのできる能力を習得するための演習を行う。	
	数理・計量社会学研究	社会学は伝統的に（質的）構成概念化に重きがあり、行為と出来事、国家と都市、階級、ジェンダーなどの概念、行為者間の関係性＝ネットワークという考え方が重要で、離散的にとらえることを基本とするので、経済学のような微積分を必要とするような数理解析方法は多用されない。社会学では対象に応じて独自に数理的・計量的なモデルを発達させてきた。この講義ではその伝統に依拠し、理論を軽視せず、重要な構成概念をどのように量的に把握するかという問題意識から質的分析と相性のいい多重対応分析、社会ネットワーク分析、質的比較分析QCAなどの理論と方法を中心に学ぶ。	
協働科目群	地域プロジェクト型研究	本科目は、プロジェクトベース、コミュニティベースの研究を計画し、実行し、評価する能力を身に付けることを目的としている。内容としては、プロジェクトベース、コミュニティベースの研究を行うにあたり必要な理論や方法論について講義する他、地域で取り組まれている実際のプロジェクトに参加したり、観察したりする中で、学んだ理論や方法論を応用できるようにしていく。 (オムニバス方式／全15回) (4. 滋野浩毅・5. 鈴木康久／3回) (共同) 第1回の講義の目的や内容について説明するイントロダクションと、第14・15回の成果報告とまとめを行う。 (4. 滋野浩毅／6回) 第3回の地域デザインに関する文献講読(ABD: Active Book Dialogue形式で行う予定)と、第9回から第13回の農山漁村の活性化や過疎問題、地域産業や中心市街地の再生といった、地域社会の諸問題に関する事例研究とフィールドワーク、その振り返りを行う。 (5. 鈴木康久／6回) 第2回のファシリテーションを重視した実践事例に関する文献講読(ABD: Active Book Dialogue形式で行う予定)と、第4回から第8回の行政計画とNPO政策に関する事例研究とフィールドワーク、その振り返りを行う。	オムニバス方式 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	社会協働型ワークショップ	<p>本科目は、複雑な社会のあり方に関心を持ち、課題を発見する能力や自分の考えを絶対視せず多様な他者を尊重する志向性を涵養することを目的に、国内外の研究者や現場の実務家等のゲストスピーカーと受講者、教員がともに現代の複雑化する国内外の様々な社会課題の原因、解決策などについてディスカッションするワークショップである。具体的な社会課題は、国内外の地域、教育、家族、ジェンダー、人口、スポーツ、文化等幅広いテーマの中から選ばれ、ゲストスピーカーのレクチャー及び該当テーマを専門とする教員の解説や論題提起の後、参加者全員でディスカッションを実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1. 伊藤公雄/5回) 第2回「社会協働の基礎理論」において社会協働の基礎となる社会科学的なアイデアについて教授する。第3～6回の家族とジェンダーに関する社会課題についてのワークショップに向けた文献講読指導、ワークショップのとりまとめ、ワークショップの復習を担当する。</p> <p>(8. 藤野敦子/4回) 第7～10回の社会と身体に関する社会課題についてのワークショップに向けた文献講読指導、ワークショップのとりまとめ、ワークショップの復習を担当する。</p> <p>(15. 加藤敦典/5回) 第1回「イントロダクション」において授業の概要説明をおこなう。第11～14回の自然と文化に関する社会課題についてのワークショップに向けた文献講読指導、ワークショップのとりまとめ、ワークショップの復習を担当する。</p> <p>(1. 伊藤公雄・8. 藤野敦子・15. 加藤敦典/1回) (共同) 第15回「まとめ」において、各ワークショップを総合するディスカッションをおこなう。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
研究テーマ科目	地域社会研究A	<p>巨大都市への社会資源の地域的な偏在と都市間競争はグローバルにヒト、モノ、カネが行き交う流動的都市空間を生み出し、経済格差を拡大している。他方コロナ禍で進んだオンラインシフトによって、地方への企業移転や大都市からの脱出、創造階級の移住などの「地域社会の空間的再編成」が急速に進行中であり、そのさらなる加速が求められている。本科目では、地方創生、地域活性化にむけた政策立案を行うため、地域問題の理論、都市空間の理論を基礎にし、地域データシステムRESASなどを利用して計量的地域研究を進めるための指針を与える。第一部においては、「地域」の抱える問題を総合的に捉えるために提唱されている「地域学」のアプローチを導入する。第二部では都市の論理を理解するため、都市社会学において展開されてきた様々な都市空間の理論を学ぶ。シカゴ学派の都市社会学、マルクス主義都市論、現象主義的空間論、ポストモダン都市論（ロサンゼルス学派）である。第三部では地域分析データシステムであるRESASや政府の統計を集めたe-Statなどを利用しながら、階級構成、社会関係、経済、創造性などの指標地域に関する様々なデータを集計する方法を実践的に学び、質的データを含めたデータ分析、エビデンスに基づいた計量地域社会学研究の実行へと導く準備を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地域社会研究B	巨大都市への社会資源の地域的な偏在と都市間競争はグローバルにヒト、モノ、カネが行き交う流動的都市空間を生み出し、経済格差を拡大している。他方コロナ禍で進んだオンラインシフトによって、地方への企業移転や大都市からの脱出、創造階級の移住などの「地域社会の空間的再編成」が急速に進行中であり、そのさらなる加速が求められている。本科目では、ソーシャル・キャピタルという概念とともに、ジョン・アーリの移動論パラダイムを導入しつつ、格差是正、地域空間の再編成に向けて日本で展開されている地方創生、地域活性化に関連した数々のモデルの妥当性を論じる。それらは、芸術やデザインに関わるクリエイティブ階級を利用した都市の再生である「創造都市モデル」、その農村ヴァージョンである「創造農村モデル」、農村への回帰を求める「田園回帰モデル」、必ずしも移住を要求しない「関係人口」交流モデルである。それぞれのモデルにおいて「よそ者」が果たす触媒的役割は大きく、「よそ者」論に基づいたソーシャル・キャピタル、ソーシャル・ネットワークワークモデルの視点からこれらのモデルの可能性が詳細に検討される。	
	家族・ジェンダー研究A	前近代社会の多様な家族形態やジェンダー構図の分析から、近代以後の産業化の中での家族とジェンダーの構造、さらに1970年代以後の、産業構造の変容にともなう価値観や生活スタイルの変化がもたらした家族・ジェンダーの動向について、データをもとに考察する。	
	家族・ジェンダー研究B	主に近代社会以後の家族・ジェンダー・セクシュアリティの動向をめぐって、法制度や社会制度、産業構造・労働の形態や文化要因の影響などに目配りしつつ、比較社会論の視点から分析を加える。	
	広告研究A	本科目では、広告を取り巻く社会的背景として「文化」を位置づけるという比較文化論的・社会学的な観点から、さまざまな広告における国際比較を通じて、日本国内および海外の広告を検討する。また、広告の国際比較の視点から広告は文化・社会状況をそのまま反映するのか、それとも社会が将来進むべき理想像を先導する役割を果たしているのかという問いも検討する。さらに、授業時間内に日本国内および世界の広告の映像資料を、文化におけるコンテクスト理論やグローバル化理論、ジェンダー論などの観点からも検討する。単に「商品の宣伝」としての広告だけではなく、「文化」としての広告の社会学という新たな見方ができることを本授業の目的とする。	
	広告研究B	本科目の目的は、消費記号論や三角形的欲望の理論等に基づき、日本及びアジアの現代の消費文化の展開や見方について議論することである。また、多様な構造をもつとともに、ダイナミックに変化してきたアジア社会では、広告がアジア社会の消費のあり方をいかに反映しているのかという問いも検討する。そしてこうした問題意識のもとで、アジア諸国の持つ「ジェンダー役割・家族像・外国イメージ」を広告の中で国際比較分析する。さらに、広告のプロセスを理解するため、広告やマーケティング・コミュニケーション分野における基本的な理論や概念についても触れ、理解を促す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	文化研究A	本科目では、受講生に対し、カルチュラルスタディーズおよび文化研究の基礎的事項に関する専門的知識を教授するとともに、具体的な事例を手掛かりに学び、当該領域の理論をいかに現代的な事情とむすびつけるのか、理解できるようにすることを目指す。授業内容では、カルチュラルスタディーズの基本的理論をはじめとした文化研究の問題設定、理論的枠組み、研究方法を検討することによって、研究を行う上で必要な知識とスキルの習得を目指す。	
	文化研究B	本科目では、受講生に対し、カルチュラルスタディーズの基礎的事項に関する専門的知識を教授する。カルチュラルスタディーズの成り立ちや歴史的背景授、主題の変遷などの学説史を押さえつつ、カルチュラルスタディーズの問題設定や理論的枠組みをより深く理解する。授業内容では、カルチュラルスタディーズの学説史とそこでの論争を理解しつつ研究の問題設定、理論的枠組み、研究方法を検討することによって、研究を行う上で必要な知識とスキルの習得を目指す。	
	社会哲学研究A	西洋近代の社会思想・法思想に関する基本的な著作をとりあげ、社会哲学の基本的な素養を養う。とりわけドイツの近代社会思想史を法と規範の観点から検討し、法の支配、人権、民主制、合法的支配といった近代市民社会の規範的理念の理解を深める。	
	社会哲学研究B	西洋近代・現代の社会思想・法思想に関する著作をとりあげ、歴史的観点から規範的問題の検討を行う。とりわけ、ドイツにおける近代市民社会の理念の構造と展開を、個人と共同体、自由と相互主観性といった論点を中心に据えなおし、そうした問題がいかなる歴史的背景から生まれてきたのか、そしてそれらがどのような現代的意義をもつのか検討する。	
	労働・人口社会研究A	本科目では人口学についての基本書を用いて人口学（形式人口学・実質人口学）についての基本知識や人口学理論を学びそれらに関連する労働分野の諸問題について学ぶことを目的とする。特に、人口学の理論としては、①マルサスの人口理論②人口転換理論③出生力の理論④近年の出生力に関する理論（マクドナルドのU字型カーブ）などを学び、途上国の人口・労働問題、先進諸国の少子高齢化問題についての理解を深める。	
	労働・人口社会研究B	本科目では実際に人口と労働に関わる諸問題について書かれた研究論文・研究書を講読することによって、この学問分野の理論・仮説や研究アプローチの方法について実践的に学ぶとともに最新の課題について議論することを目的とする。 例えば①国際人口労働（移民）② 非正規労働 ③仕事と生活（育児・介護）の両立 ④少子高齢社会の雇用問題 ⑤途上国の労働問題のテーマに関連する研究論文等を講読する。	
	教育社会研究A	社会問題としての教育問題について、問題の発生・認識からメディアによる報道や大衆の反応を経て、立法や行政的対応などの政策形成とその実施状況や影響などに至る、一連の過程について検討する。具体的な事例としては、いじめなどの問題行動や不登校といった問題、あるいは、産業構造や就業構造の変化によるキャリア教育の出現や、子どもの貧困対策などのほか、教師の働き方改革など、様々な問題があげられる。これらの問題の中から、履修生が取り上げたい問題を中心に、一緒に考えることとしたい。	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育社会研究B	米国における1960年代の教育機会の均等に関するコールマン調査や、就学前教育の効果に関するペリー就学前計画から、1980年代の学級規模縮小の効果に関するテネシー州STAR計画などを経て、2010年代の英国のEducation Endowment FoundationによるRCTを採用したエビデンス産出に至るまでの、実証的研究の歩みを軸に、教育実践・教育政策に関わる研究の方法論と課題について検討する。これらを通じて、今後、社会的にも重要になってくると考えられる「エビデンスに基づく教育」について考える。	
	地域メディア研究A	本科目は、デジタルテクノロジー出現以降のメディアを対象とし、特に地域社会におけるメディアのあり方について、消費者のメディア需要の変化や、産業構造、政策動向など幅広い視点から学ぶ。Pew Research Centerなどの有力な内外の研究機関のペーパーを講読して、国際比較の分析力も高める。将来、メディア経営やメディア政策への提言を行う力を身につけるための基礎を作ることを目的に、娯楽性と公共性の双方の役割が期待されるメディアの持続可能な事業のあり方を考察していく。	講義11時間 演習4時間
	地域メディア研究B	本科目は、デジタルテクノロジー出現以降のメディアを対象とし、特に地域社会におけるメディアのあり方について、消費者のメディア需要の変化や、産業構造、政策動向など幅広い視点から学ぶ。前期からの研究機関のペーパーの講読に加え、内外の事例研究やアンケート調査なども行なって、より実践的な知見の修得を目指す。将来、メディア経営やメディア政策への提言を行う力を身につけるための基礎を作ることを目的に、娯楽性と公共性の双方の役割が期待されるメディアの持続可能な事業のあり方を考察していく。	講義8時間 演習7時間
	映像情報研究A	本科目では、いわゆるFilm StudiesやCinema Studiesを源流として、「映像」を学問として考え、歴史的・理論的見地から捉えることを目指す。 したがって、映像の生産、流通、上映、表象、受容に関わる多様な側面を、歴史的・社会的・政治的・経済的・文化的・技術的・環境的な面から検討し、これらを視野に入れながら、実証的・理論的に研究することを目指す。 本科目では、具体的な研究対象として、映像技術の発達の歴史と文化的なインパクトを軸に、映像と社会の関係性の変遷や将来の映像技術革新がもたらす社会への影響について最新テクノロジー情報をもとに検討を加える。さらには、映像を流通させるプラットフォームの変化や視聴者と製作者の関係性の変化について産業構造的な側面からも検討する。	
	映像情報研究B	本科目では、いわゆるFilm StudiesやCinema Studiesを源流として、「映像」を学問として考え、歴史的・理論的見地から捉えることを目指す。 したがって、映像の生産、流通、上映、表象、受容に関わる多様な側面を、歴史的・社会的・政治的・経済的・文化的・技術的・環境的な面から検討し、これらを視野に入れながら、実証的・理論的に研究することを目指す。 本科目では、具体的な研究対象として、情報をデザインすることによって、社会の諸課題を解決するシステムやコンテンツの企画、開発を行う。VR、AR、MR等の空間的映像への展開、各種デバイスや身体センサ等を用いた入出力インタフェースを取り扱う。さらには、映像表現の可能性を分析し、超高精細映像が可能にする新たな映像表現の可能性を探る研究に取り組む。	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ社会研究A	障がい者スポーツを事例として取り上げ、そこで生じている様々な課題について、課題が何かではなく「なぜ課題となったのか」を、スポーツそれ自体の歴史的形成過程やスポーツ文化の特徴の観点から整理する。その上で、近代スポーツを超越するものとして、障がい者スポーツが基点となる新たなスポーツ文化の創造の可能性について、考察していく。 なお、このことを行うにあたって、障がい者スポーツの課題について社会学的観点から書かれた論文、スポーツと社会との関わりについて歴史的、社会学的観点から書かれた論文、スポーツと身体との関係性について書かれた論文等を読む。	
	スポーツ社会研究B	地域スポーツを通じた、共生社会のあり方について考察する講義である。近代スポーツでは排除の対象となっていた障がい者、高齢者、女性も含めて、地域住民の誰もが参画できる地域スポーツの場として期待されているのが総合型地域スポーツクラブである。そこで、総合型地域スポーツクラブを事例として取り上げる。クラブと地域社会（コミュニティ）との関係性について、テニースの理論や結社の歴史に関する文献等を基に、歴史的、社会的観点からクラブの発生とその背景および、近代社会においてクラブがどのような機能を担ってきたのかについて講義する。その上で、不確実性や多様化が進展する現代社会において、共生社会のあり方と関わる市民型クラブの公共性の生成について、公共性に関する先行研究や海外（主にドイツ）のクラブの事例を基に、理論的観点からとマネジメントの観点から考察する。	
	健康社会研究A	本科目では、所得や教育水準、他者とのつながり（ソーシャル・キャピタル）など健康に影響を与える社会的な要因（Social Determinants of Health）についての理論と最近の知見（エビデンス）についての知識を修得することを目的とする。さらに、近隣環境要因（各種社会資源へのアクセシビリティなど）と健康の関係についての知識も習得し、これらの多面的な視座に基づき社会格差の縮小、集団の健康水準の向上を目的とした政策提言のあり方について理解する。	
	健康社会研究B	本科目では、国内外の先行研究を参照しながら健康社会学研究の方法論についての知識の修得を目的とする。観察研究（横断研究、コホート研究など）と介入研究（ランダム化比較試験、非ランダム化比較試験など）の違いなどについて理解を深めるとともに、研究デザインによるエデンスレベルの違いについても理解を深める。さらには、研究デザインとそれに対応した分析手法についても理解を深めた上で、自身の研究テーマにおいて最適な研究デザインを作成する能力を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	特論演習 I	<p>(学位論文で取り上げる研究テーマの探索と絞り込み) 学位論文の作成に向けて第一段階目の指導を行う。 具体的には、受講生の既修得レベルに応じて、専門分野の先行研究の論文や文献を講読させ、十分に理解させる。また先行研究を通し、専門分野の現在の研究水準の動向や研究調査のアプローチを知る能力も涵養する。受講生は、様々な先行研究を講読する中で自分の関心のあるテーマを探索する。教員との議論の中で学期末には、受講生に自身の研究テーマを絞り込んでもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤 公雄 エビデンス・ベーストの観点にたつて、ジェンダーおよび家族に関わる文献および資料の分析を通じて研究指導を行う。 3. 金光 淳 写真を利用したビジュアルメソッドの方法を用いて、地域問題を可視化するような様式で地域社会研究課題の研究指導を行う。 6. 惣脇 宏 政策過程の分析手法をもちいて、社会問題としての教育問題に関する政策立案過程についての課題の研究指導を行う。 8. 藤野 敦子 人口や労働問題に関連する研究テーマ（例えば少子高齢化問題、家庭と仕事の両立、非正規労働、キャリア形成など）に対し、特に量的・質的なデータ分析を用いた実証的な論文作成の研究指導を行う。 9. PONGSAPITAKSANTI PIYA 内容分析やアンケート調査、インタビュー調査などの社会調査の手法をもちいて、広告の課題の研究指導を行う。 10. 耳野 健二 近現代のドイツを中心とする社会思想・法思想にかかわる文献を取り上げ、社会哲学上の問題について研究指導を行う。 11. 山中 千恵 質的調査法をもちいてカルチュラルスタディーズ、文化研究を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特論演習Ⅱ	<p>(学位論文で取り上げる研究テーマの確定) 特論演習Ⅰを踏まえ、学位論文作成に向けた第二段階目の指導をする。具体的には、受講生に、テーマの設定、先行研究と研究の学術的な位置づけ、研究調査の方法、結果に至る道筋等を報告してもらい、共に議論する。また関心のあるテーマに対し、どのような調査方法を選択するのかを、詳細に検討し、必要に応じてフィールド調査も実施する。学期末には、学位論文のテーマを確定してもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤 公雄 エビデンス・ベーストの観点にたつて、ジェンダーおよび家族に関わる文献および資料の分析を通じて研究指導を行う。 3. 金光 淳 写真を利用したビジュアルメソッドの方法を用いて、地域問題を可視化するような様式で地域社会研究課題の研究指導を行う。 6. 惣脇 宏 政策過程の分析手法をもちいて、社会問題としての教育問題に関する政策立案過程についての課題の研究指導を行う。 8. 藤野 敦子 人口や労働問題に関連する研究テーマ（例えば少子高齢化問題、家庭と仕事の両立、非正規労働、キャリア形成など）に対し、特に量的・質的なデータ分析を用いた実証的な論文作成の研究指導を行う。 9. PONGSAPITAKSANTI PIYA 内容分析やアンケート調査、インタビュー調査などの社会調査の手法をもちいて、広告の課題の研究指導を行う。 10. 耳野 健二 近現代のドイツを中心とする社会思想・法思想にかかわる文献を取り上げ、社会哲学上の問題について研究指導を行う。 11. 山中 千恵 質的調査法をもちいてカルチュラルスタディーズ、文化研究を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特論演習Ⅲ	<p>(学位論文の執筆準備) 特論演習Ⅰ、Ⅱを踏まえ、学位論文作成に向けての第三段階目の指導を行う。授業は、受講生の研究分析の結果や考察等の研究の報告が中心となる。教員は受講生と議論を繰り返し、論証の水準を確認し、フィードバックを行う。また同時に、学位論文の構想及び草稿の作成に着手させ、その内容を確認する。さらに秋に行われる学位論文中間報告会でこれらが報告できるよう、その準備に対する指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤 公雄 エビデンス・ベーストの観点にたつて、ジェンダーおよび家族に関わる文献および資料の分析を通じて研究指導を行う。 3. 金光 淳 写真を利用したビジュアルメソッドの方法を用いて、地域問題を可視化するような様式で地域社会研究課題の研究指導を行う。 6. 惣脇 宏 政策過程の分析手法をもちいて、社会問題としての教育問題に関する政策立案過程についての課題の研究指導を行う。 8. 藤野 敦子 人口や労働問題に関連する研究テーマ（例えば少子高齢化問題、家庭と仕事の両立、非正規労働、キャリア形成など）に対し、特に量的・質的なデータ分析を用いた実証的な論文作成の研究指導を行う。 9. PONGSAPITAKSANTI PIYA 内容分析やアンケート調査、インタビュー調査などの社会調査の手法をもちいて、広告の課題の研究指導を行う。 10. 耳野 健二 近現代のドイツを中心とする社会思想・法思想にかかわる文献を取り上げ、社会哲学上の問題について研究指導を行う。 11. 山中 千恵 質的調査法をもちいてカルチュラルスタディーズ、文化研究を行う。 	

授 業 科 目 の 概 要			
(現代社会学研究科現代社会学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特論演習Ⅳ	<p>(学位論文の作成)</p> <p>特論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ及び中間報告会でのコメントや評価などを踏まえ、学位論文作成に向けての最終の第四段階目の指導を行う。授業は、学位論文の構成案に基づく受講生の研究報告が中心となる。受講生は教員との議論を繰り返すことで研究成果の完成にむけて問題点を明確化する。文章表現など技術的側面も含め、完成度の高い学位論文が提出できるよう指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 伊藤 公雄 エビデンス・ベーストの観点にたつて、ジェンダーおよび家族に関わる文献および資料の分析を通じて研究指導を行う。 3. 金光 淳 写真を利用したビジュアルメソッドの方法を用いて、地域問題を可視化するような様式で地域社会研究課題の研究指導を行う。 6. 惣脇 宏 政策過程の分析手法をもちいて、社会問題としての教育問題に関する政策立案過程についての課題の研究指導を行う。 8. 藤野 敦子 人口や労働問題に関連する研究テーマ（例えば少子高齢化問題、家庭と仕事の両立、非正規労働、キャリア形成など）に対し、特に量的・質的なデータ分析を用いた実証的な論文作成の研究指導を行う。 9. PONGSAPITAKSANTI PIYA 内容分析やアンケート調査、インタビュー調査などの社会調査の手法をもちいて、広告の課題の研究指導を行う。 10. 耳野 健二 近現代のドイツを中心とする社会思想・法思想にかかわる文献を取り上げ、社会哲学上の問題について研究指導を行う。 11. 山中 千恵 質的調査法をもちいてカルチュラルスタディーズ、文化研究を行う。 	